



令和5年度 西都市立茶臼原小学校便り

茶臼原小通信 9月号

文責 長友 裕之

進んで学び 心豊かで
元気な児童の育成

進んで学ぶ子 心豊かな子 元気な子

2学期 始業式の話です。

8月25日(金)に2学期がスタートしました。児童は元気に登校してくれました。始業式でも皆、素敵な笑顔を見ることができました。

保護者の皆様、長い夏休み、ご家庭での指導、お疲れ様でした。2学期も、知、徳、体と子どもを成長させてまいります。

始業式では、以下のことを話しました。

『自立とは、他人のせいにはしないこと。』

『自立するには、わからないことをまわりの友だちに訊けるようになること。』

の2つを話しました。

自立するには、依存が大事です。依存なしでは自立していきません。学校は、授業がメインです。45分×5コマ、6コマあります。このたくさんの時間に、わからないことを周りの友だちに遠慮なく訊ける関係を作っていくことを2学期も続けていきます。

対話的な学びの意義は、困ったとき、「わからない」「教えて」の2語が言える子どもたちを育てることにあります。自力解決には限界があります。それよりも友だちに依存したり、子ども同士で学び合ったりする経験を積み重ねていくと、人に弱みを見せられるようになります。そんなつながりを教室の中で育てていくことが大事だと思います。自己肯定感、自己有用感を高められます。

この、「訊く」という行為は、以外と難しいものです。ですから、教師は、その子のそばに行って、『となりの人に訊いてごらん』と促します。これは、1回言って訊くことができたからといって、次から、すぐ訊けるものではないので、教師側が何度となく、根気よく、促すことが大事です。

2学期早々授業を見て回りました。先生方のおかげで訊き合う光景が見られるようになりました。ある子が友だちに訊いていました。教えてもらったあとに、その子は「ありがとう」と言っていました。それを聞いて私は、非常に幸せな気持ちになりました。子ども達同士、よりよい関係ができあがっています。

蛇足ではありますが、我々大人は、子どもの自立を促すために、「どうしたの?」「どうしたいの?」「○○なことなら手伝えるけど」を、学校でも、家庭でも、子ども達が耳にするようにしていかなければなりません。2学期も多くの学びがある学期にしてまいります。よろしくお願いいたします。

参観日・奉仕作業よろしくお願いします。

9月1日(金)は、午前中の参観日になります。1~4年生までは、2時間目参観、3時間目懇談、5・6年生は、3時間目参観、4時間目懇談となっています。

学校運営協議会も同時開催となっております。運営協議会の皆様も授業見学をされます。ご理解・ご了承ください。

3日(日)に予定しておりました奉仕作業は、9月10日(日)になりました。運動会にむけての運動場整備ということもあります。よろしくお願いいたします。

9月の行事予定

1日(金)	参観日・学校運営協議会
10日(日)	奉仕作業
11日(月)	結団式
14日(木)	PTA 運動会実行委員会
18日(月)	敬老の日
23日(土)	秋分の日
29日(金)	ひもろぎ装着練習; 5・6年生

雑感

この夏、私が一番衝撃を受けた新聞記事です。知っていたつもりではダメですね。

以下、新聞記事の内容です。(数字等のみ抜粋します)

1945年8月6日8時15分(原子爆弾投下)
43秒後、600m、1000000℃、10秒間
約3000~4000℃、11 t/m³、2.5Km 地点
午前10時頃から午後2時~3時頃、終日